



大町市キャラクター
おおまびよん

お互いさまのまちづくり

第159号
平成24年8月1日

社協 おおまち

法人設立50周年特集号



おかげさまで 社協も私も 50歳に!

主な内容は

- ◆社協法人設立50周年記念特集…………… 2～6 ページ
- ◆岩手県山田町
「東日本大震災被災地社協の現場から」 …… 7 ページ
- ◆ボランティアセンター運営委員会の開催…………… 8 ページ

- ◆ボランティア団体紹介…………… 9 ページ
- ◆あなたにインタビュー ～何かボランティア
活動をしていますか～…………… 10 ページ
- ◆お知らせ・50周年記念講演会ほか…………… 12 ページ

奉仕の時代

1962(昭和37)年～
1974(昭和49)年ころまで

1962(昭和37)年 社会福祉法人に認可される

社会福祉事業を行う団体として法的に認められるようになると社協の仕事は大きく変わっていきます。



当時の社協事務所(市役所内)

1963(昭和38)年/大町助産院開院

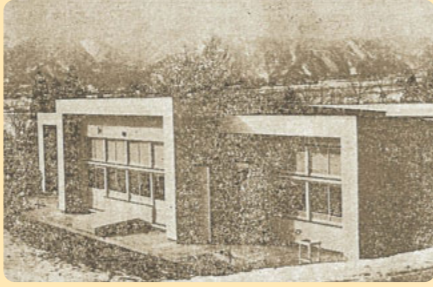
全国でも初の事例といわれる大町助産院を開院。9ベッドで2人の助産婦が対応し、市内だけでなく安曇平からの入院者も受け入れました。「安い経費で赤ちゃんが産める施設がほしい」との声に応えたもの。閉院まで約2,000人の赤ちゃんが誕生しました。



大町助産院(南原町)

1967(昭和42)年/保育園開園

市内4地区のうち社地区だけに常設保育園がなく、幼児をもつ親の悩みであったが、この声に応え開園したもの。



1968(昭和43)年/老人福祉センター開設

老人クラブなどからの「慰安会や会合が安く気軽にできる施設がほしい」との声に応え、社協が整備したもの。大広間は70畳。2年後には大浴場も整備されました。



開設当時の老人福祉センター

1974(昭和49)年/家事協力員制度開始

県下初の取り組み。家事協力員9人のスタッフで開始。人手がない市民からの申し込みが殺到しました。

ボランティアの時代

1974(昭和50)年～1994(平成6)年ころまで

1979(昭和54)年 奉仕活動センター(現ボランティアセンター)発足

市民の善意を役立てようと、善意銀行ともいえる大町奉仕活動センターを開始しました。「社会のために活動したいが、どうすればよいか」などの声に応えたもの。



1988(昭和63年)にはボランティアセンターに改称

支え合いの時代

これから～

2011(平成23)年 東日本大震災復興支援ボラバス運行(2回)

2012(平成24)年 小谷村へ除雪ボランティア参加

奉仕の時代から支え合いの時代へ 写真が語る



地域福祉のあゆみ

社協の50年を振り返る

1980(昭和55)年/ 社協報「福祉のまちづくり」 創刊号発行



1991(平成3)年 初の社会福祉セミナー

高齢化社会を迎え、地域福祉、在宅福祉のあり方を探ろうと開催したもの。

1992(平成4)年 障害者共同作業所 「ひまわりの家」運営を受託



2010(平成22)年 認知症対応型デイサービス 「ひなたぼっこ」開所



4月1日、白塩町に開所。住宅を改装した親しみやすい雰囲気の施設で利用定員は12人。

まちづくりの時代

1995(平成7)年～現在

1995(平成7)年 小地域福祉ネットワーク活動

地域住民同士が、網目のように連携しながら、お互いを支え合っていく活動です。自治会単位での活動を推進し、この年には、5つのネットワークができました。



二ツ屋やよい会 ～住民交流会食会～



2000(平成12)年 デイサービスかたくり開設 児童館の運営を受託

かたくり職員辞令交付

2002(平成14)年 総合福祉センターの管理運営受託



総合福祉センター開所式
ひまわりの家コンサート

監事	事務局長	理事	副会長	顧問
高橋 厚	宇田 義一	西沢 正敏	岡部 康江	川上 紀源
前田 敏博	宮坂 岳至	浅見 昌敏	原 和美	飯沢 要
				中山 幸雄
				栗林 滋益
				柳澤 良介
				黒岩 徹(市長)
				牛越 良介
				北原 和好
				石川 清
				西澤 三

大町市社協役員

H24年7月末現在

松田 正人	金原 たか	駒澤 勝市	平林 ぼるゑ	五十嵐 水卵	奥原 覚次	西澤 正	太谷 正祥	松澤 郁子	黒岩 良介
S 37年9月～S 38年4月(市長)	S 38年5月～S 44年8月	S 44年9月～S 46年8月	S 46年9月～S 54年7月	S 54年8月～S 58年3月	S 58年4月～H 3年3月	H 3年4月～H 13年3月	H 13年4月～H 17年3月	H 17年4月～H 21年3月	H 21年4月～現在

歴代会長

- 昭和37年・社協法人認可
- 昭和38年・大町助産院開院
- 昭和40年・住民会費制の導入
- 昭和42年・保育園開園
- 昭和43年・老人福祉センター開設
- 昭和45年・老人福祉センター専用浴場建設
- 昭和46年・厚生福祉センター開設
- 昭和49年・小口資金貸付業務開始
- 昭和49年・家事協力員制度開始【県下初】
- 昭和54年・奉仕活動センター(現ボランティアセンター)発足
- 昭和55年・社協報「福祉のまちづくり」創刊
- 昭和63年・老人福祉バス運行開始
- 平成4年・障害者共同作業所「ひまわりの家」管理運営受託
- 平成5年・入浴サービス事業の受託
- 平成11年・移送サービス事業の受託
- 平成12年・デイサービスセンター「かたくり」開所
- 平成14年・大町市総合福祉センター開所運営受託
- 平成15年・デイサービスセンター「こすもす」開所
- 平成15年・障害者デイサービスセンター「スクラム・ネット」開所
- 平成15年・精神障害者作業所「すずらん」開所
- 平成17年・知的障害者デイサービス「たんぼぼ」開所
- 平成18年・第一次地域福祉活動計画策定
- 平成18年・八坂、美麻村社協と合併し新大町市社協誕生
- 平成19年・多機能型障害福祉サービス事業所開所
- 平成22年・認知症対応型デイサービス「ひなたぼっこ」開所
- 平成23年・東日本大震災復興支援ボラバス社協号運行(岩手県山田町)
- 平成24年・第二次地域福祉活動計画策定

50年の歩み





お互いさまの花を もっと咲かせよう

おかげさまで法人設立50周年
これからも皆さんと共に歩みます

総務企画課

社協窓口として笑顔でお待ちしております。
TEL 22-1501



安心してサービスを受けられるよう支援します。
TEL 26-3860



ヘルプーステーション

24時間365日運営しています。
TEL 21-3715



デイサービスこすもす

元気と笑顔でお待ちしております。
TEL 22-1485



スクラム・ネット

身体・知的・精神の3障がいの総合相談窓口です。
TEL 26-3855



ハーモニー・ルーム

障がいのある方に、生きがいづくりを目的に講座を開設しています。
TEL 26-3855



デイサービスひなたぼっこ

アットホームなおもてなし、お茶飲み気分どうぞ。
TEL 21-3220



八坂地域福祉センター デイサービスみさか

家庭的な雰囲気でお迎えします。
TEL 26-2100

法人設立にあたり、一番熱心に社協の後押しをしてくれたのは地域の皆さまでした。歳末愛の助け合い運動では、自治会や日赤奉仕団、民生委員など地域でお世話役を担っている人たちが中心になって、市民に呼びかけて協力を求め市内の恵まれない家庭に心づくしのお年玉を贈る運動をしたと記録にあります。地域のごことは地域で解決しようという支え

大町市社会福祉協議会が発足して半世紀の歳月が流れました。50年前、社会福祉協議会を法人化した目的は、①社会福祉を目的とする調査研究、総合的な企画を進める、②連絡調整並びに団体などの育成を図る、③事業の普及宣伝に努める、④共同募金運動に努めるなど、活発な事業展開を行うことでありました。当時、この社会福祉法人組織化は県下では諏訪市に次いで、大町市が2番目の認可でありました。

平成7年から行っている「小地域福祉ネットワーク活動」は、高齢や障がい、あるいは、子育てに悩んだりして家の中に閉じこもりがちなたちを地域の中に閉じこもりがちな人々を地域のみんなが支え合う活動を社協が後押ししようというものです。大町市社協は、これからも民生児童委員や自治会、ボランティア団体等と連携しながら、地域の皆さまとともに地域福祉の充実に努めてまいりますので今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

大町市社会福祉協議会 役員一同
合いの精神はこのころから既に根づいていたのです。
そして、今は21世紀。この間、時代はいくつもの変化をしてきました。それに伴って、社会福祉協議会の仕事も変化してきました。しかし、変わらないものがあります。それは、年をとっても、「誰もが安心して暮らし続けることができる地域づくり」という社会福祉協議会の理念です。



美麻地域福祉センター デイサービスみあさ

梨嶺リゾートでスタッフ一同お待ちしております。
TEL 29-2341



障害福祉サービス事業所

地域とのつながりを大切に、利用者の意思を尊重し、支援をしています。
☆ひまわり TEL 22-4956
☆たんぼぼ TEL 23-3650
☆すずらん TEL 26-3870

あなたにインタビュー!!

Q 社協に期待することや要望は何ですか?

昭和37年9月に大町市社協は社会福祉法人に認可されました。今年で50年となり節目の年を迎えます。そこで本号の表紙を飾っていただいた方からお話を伺いました。

●10年後を見据えた事業を



平借馬
松田 守さん

子どものころは、不便なことが多く、地域で助け合いがあった。現代は、生活が便利になり、人間関係の希薄化がある。しかし、便利になったのは、若い人ばかり。一人暮らしや高齢者世帯が目に見えて増えている。地域づくりの仕組みを考えるのが社協であれば、10年後を見据えた今を考えて事業を行うことに期待する。

●社協の仕事はますます重要



常盤上一
北原紀美江さん

社協50周年おめでとうございます。

以前、家族が社協の介護サービスでお世話になり、ありがたく今も感謝しています。本当に大変な仕事で頭が下がります。

高齢社会の中で、ますます社協の仕事が重要になってきます。

地域のために、皆さん頑張ってください。

●職員の言葉一つで...



八坂明野
青木 里美さん

今まで培ってきた基盤を大切にしながら、1歩踏み出した活動に期待します。市民のために一人ひとりの意見を大切に、大事な部分を逃さず事業に反映してください。

利用者が元気になるか、嫌な思いをするかは、職員の方の言葉一つです。すてきな話術で元気になれるそんな社協になってください。

社協は今年法人設立50周年

●身近で頼れる社協に



社宮本
濱澤 恭子さん

介護や福祉問題は行政や民間の力が必要です。足りない施設や人材確保など先行き不安なこともあります。

社協には、これからもさまざまな情報を発信し、支える側、支えられる側どちらにも身近でやさしく頼れる存在であってほしい。

●安心して暮らせるように



大町六九町
平林美代子さん

50周年おめでとうございます。社協は高齢者や障がいのある方が安心して暮らせるためにご尽力していただいていると思います。

これからもすべての住民が生きがいをもち、安心して暮らすことができるよう応援をしてほしい。

●心のよりどころであってほしい...



美麻大塩
木村 金恵さん

総合福祉センター内には障がいや高齢者関係の相談場所もあって、心強い。社会とつながる接点をもたせてくれる場所だと思っています。これからも、何かあった時の心のよりどころであってほしい。学校や保育園、病院が近くにあっていいですね。

岩手県山田町社協より
寄稿していただきました

東日本大震災 被災地社協の現場から——

山田町社会福祉協議会
事務局長 福 士 豊



仮設住宅で始めたサロン「よりあっこ」

◆崩壊した近隣社会を再構築し地域福祉事業につなぐ

あの日から一年が過ぎた。長くて強い揺れ、30分後に襲ってきた黒い塊。大津波は一瞬にして平和な町を飲み込んだ。防災無線は3メートルの津波情報を発したが、実際には10メートルだった。

翌日から3日間続いた大火災。ガスボンベが破裂し車のガソリンタンクが黒煙を吹き夜空を真っ赤に焦がした。津波で流されなかった住宅も持ち主の目前で灰となった。

町役場まで火の手が迫り、社協職員は各施設に避難していた住民を内陸部の体育館等に誘導、移送した。

発災当初、何をすべきか、まったく無知の状態だった。「社協が前面に出ないと」「職員数が足りません」と社協職員。「社協って何をやる組織ですか?」とボランティア。

そうした中、みえ災害ボランティア支援センターや長野県社協などの支援を受け、ボランティアセンターが開設した。4月9日と沿岸被災地では1ヶ月遅い。適当な場所や施設がないなど、ボランティアを受け入れる環境が整わないことが理由であった。

結果として、町の南にある高台のB&G海洋センターを拠点にスタートした。

社協職員の多くも被災していたが、避難所での高齢者の介護や入浴車の運行、利用者の安否確認をした。社協の日常業務がまったくできない状況であったが、ボラセンの運営、仮設住宅でのサロンやカフェ、男の料理教室の開催など民生児童委員、老人クラブ連合会、ボランティア等の協力を得て、崩壊したコミュニティー（近隣社会）を再構築し、本来の地域福祉事業につなげることを視野に入れた事業の展開を行った。

◆社協は縁の下の力持ち ソフト面の支援が急務

一年を経過し、住民ニーズも変化が見えてきた。がれきはなくなり、景色は灰色と緑の2色の世界に。これまでのがれき撤去、漁具の洗浄、写真洗浄等の支援から、こころのケアなど専門分野でのソフト面での支援が必要となってきた。

遊び場や勉強する場所がない子どもたちの生活環境や、海を見たくない、津波の夢を見るなどのケアを考えての活動の展開が急務である。

生きることが精一杯だった発災当時のことが、今は遠い昔のように思える。これまで体験したことのない悲しみ、苦しみ、論争、葛藤、そして自己嫌悪との闘いであった。

そうした中、全国から集まった2万人余のボランティアの熱い思いや彼らとの出会いが私たちの原動力となった。全国から物心両面の支援をいただき心から感謝している。発災当初から言ってきた言葉がある。「社協が前面に出る必要はない。すべきことをしていれば分かってもらえる。今までどおり縁の下の力持ちでよい」と——。

一年が過ぎ、社協と社協の活動も理解されつつある。ハード面の復興は行政が、地域福祉を担うものとして、ソフト面の支援を行うのは社協とわきまえて進むしかない。

ボランティアセンター運営委員会を開催!



ボランティア活動をより一層充実させていくための運営委員会を開催しました。

今回は一回目であり、ボランティアセンターの概要を説明した後、各会議事項について委員の皆さんと意見交換をしました。(6月26日)

運営委員の皆さんです

(敬称略)

役職	氏名	選出区分
委員長	窪田 英雄	小地域福祉ネットワーク
副委員長	柳澤 房枝	福祉施設
委員	仁科よし子	障がい者支援ボランティア
〃	西原 修	障がい者支援ボランティア
〃	浅野 洋子	地域活動ボランティア
〃	中島 節子	地域活動ボランティア
〃	合津 康子	地域活動ボランティア
〃	新井 孝子	高齢者支援ボランティア
〃	一本木佐知子	子ども関係ボランティア
〃	丸山 道雄	小地域福祉ネットワーク
〃	飯森 洋一	青年会議所
〃	藤井 泰寛	個人ボランティア
〃	今溝三千子	災害ボランティア

意見や要望では…

ボランティア入門講座について——

- ・福祉施設や被災地では話を聞いてくれる人を求めている。⇒ 傾聴ボランティアの養成
- ・社協が単独でやるのではなく、企業と協力してできることはないだろうか。

備品貸出について—— 4月より社協の備品貸出を行っています。

- ・他機関で貸し出している内容も社協で情報把握し、市民に提供しては。



ボランティア基金の活用について—— 皆さまから寄せられた寄付金を基金としています。

- ・復興支援として、何か活用できることはないか。
- ・障がいのあるなしにかかわらず一緒に楽しめるスポーツ用品を購入して貸し出しをしては。

ボランティアセンターはこんなところ!

☆ボランティアを知りたい! してみたい! そんな方に…

ボランティアに関する相談や情報提供をしています。

お気軽にご相談を

☆ボランティア講座の開講!

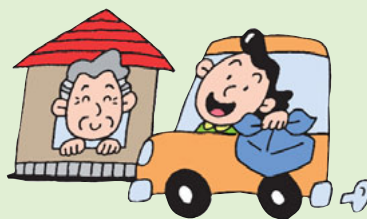
ボランティアを始める人の講座やさらに活動を充実させる講座など

☆福祉教育の啓発!

小中高等学校や企業など要望があればどこへでも…福祉体験プログラムを多数用意しています。

☆その他

社協備品の貸し出し、各種ボランティア保険の取り扱いなど



【所在地・問い合わせ】



大町市大町1129番地

大町市総合福祉センター内

TEL 22-1501 fax 22-7071

ボランティア 団体紹介

大町市には、多くのボランティア団体があります。どのようなボランティア団体があるのでしょうか？

大町市ボランティアセンターに登録している団体を活動内容別に紹介します。

今回は、子育てと読み聞かせにかかわるボランティアグループです。

子育てにかかわるボランティア (8グループ)

アンパンマンクラブ

未就学児の子育て中のパパ、ママの交流を目的として活動しています。

たんぽぽの会

不登校児の親の会です。交流を通じて情報交換をしています。

千年の森自然学校

豊かに育ってほしいという思いで自然体験教室やキャンプを行っています。



『自然豊かな大町で体験教室』

大町子ども劇場

生の舞台、芸術に触れる環境をつくり、仲間づくりをして心豊かに育つ活動をしています。

大町の給食を考える会

子どもたちの内部被爆ゼロに向けて、勉強会を中心に活動しています。

大町南小学校安全パトロール

安全に登下校できるよう、南小学校区の安全パトロールをしています。

食育ボランティア

中央保健センターで、乳幼児健診等で調理補助をしています。

ファミリーサポートバンビ

緊急時にお子様を一時お預りしたり、イベント等の託児所運営をしています。

読み聞かせボランティア (9グループ)

大町東小学校

読み聞かせボランティア

東小児童を対象に絵本読み聞かせ

おはなしカリヨン

八坂地区の保育園や小中学校で読み聞かせ

おはなしを読む会『風車』

未満児への読み聞かせや小学生への朗読指導

おはなしの会『やしろ』

どんぐり保育園や東小児童クラブ等での読み聞かせ

北小スマイル

北小で児童を対象に読み聞かせ

ミルフューユ

中央保健センターでの4歳児健診時等で読み聞かせ

ちいさいうちの会

常盤地区の保育園小学校、仁科台中学校で読み聞かせ

ことばの森

英語絵本読み聞かせ

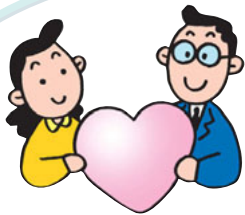


読書ボランティア連絡会

読み聞かせボランティア相互の交流と情報交換を目的に活動

ボランティアグループに関する問い合わせ先

大町市ボランティアセンター (市社協内) TEL 22-1501 FAX 22-7071



何かボランティア活動をしていますか？

●ちぎり絵をやっています



大町三日町
曾根原邦子さん

趣味でちぎり絵をやっています。できた作品を大町病院の待合ギャラリーで展示しています。見てくださる方に少しでも心が和んでいただけたらと思います。

ボランティアと思わずやっていたのですが、これもボランティアの一つの形と言われたことを思い出します。

これからも無理せずできることを続けていけたらと思います。

●点訳ボランティアをやっています



常盤上一
矢花サヤカさん

数年前に、広報紙に載っていた点訳ボランティアの記事を目にしたのがきっかけで、点訳ボランティアを始めました。

点字の基礎からのスタートはいつも辞書を片手に覚えることが多く大変でした。好きな本との出会いがあったり、わからないことを教えてくれる仲間がいることが大きな励みです。

これから先、年を重ねても点訳ボランティアを続けていきたいです。

●数々のボランティア活動をやっています



美麻二重
永沼 正直さん

リンゴ園の摘花や収穫ボランティアをしたり、東日本大震災のボランティアも参加しました。ボランティアをやろうと強く意識しているだけでなく、退職してから時間を上手に使おうと考えた結果、ボランティア活動につながっています。活動を通じて、新たな出会いがあったり、自分自身の刺激にもなり、楽しみながら活動しています。人と人のつながりが深まったらいいなと思っています。

●好きな歌をうたっています



平西原
佐藤 貞子さん

歌好きの仲間では何かできないかと「ひばりの会」を立ち上げ、福祉施設などで、皆さんの知っている曲を歌い一緒に楽しんでいます。

好きな歌を続けることで、病気を乗り越え、明るく前向きに過ごしています。これからも歌を通じて、たくさんの元気を皆さんにお届けしたい。

●マジックや踊りをやっています



八坂矢下
松井 清家さん

独学で学んだ「マジック」を保育園やデイサービス、地域のイベントなどで披露したり、踊りも続けています。マジックは頭も使うし、指先の運動にもなって、健康のためにもいい。

「人を楽しませて、自分も楽しむ」「死ぬまで挑戦」をモットーとして、これからも自分のできる範囲でやっていきたい。

●ネットワーク活動をやっています



社松崎
藤井 勝さん

小地域福祉ネットワーク活動をしています。地域のみんなで話し合い、高齢な方のお宅の雪かき活動や、地元新聞の記事を見て、健康ウォーキングを月2回しています。ボランティアというより、地域活動ですがやってみて大勢の方と交流ができ、地域の絆を深めることができたと感じている。

お互いさまのまちづくり

大町市社会福祉協議会の 『特別会費』にご協力をお願いします。

大町市社会福祉協議会では、地域で助け合える仕組みづくりを目指して、日ごろから声のかけあえる地域づくりを支援していきます。そのため、一人でも多くの方に趣旨に賛同いただき、「特別会員」として市社協を応援いただきますようお願いします。

会員になるには？

- ① 7月下旬から、担当民生児童委員の皆さんが、ご家庭にお伺いします。
- ② 本会事務局で、年間を通じて受付しておりますので、ご協力をお願いします。

特別会費
お一人
3,000円

皆さまの会費はどのように活用されていますか。



事前予約にご協力ください。 ☎ 22 - 1501 (大町市)

大北地域心配ごと相談日程 8月・9月

	開催日	時間	相談内容	担当者	場所	開催者・連絡先
8月	8月6日(月)	13:00~16:00	心配ごと相談	心配ごと相談員	大町市 総合福祉センター	大町市社協 TEL22-1501
	8月20日(月)	13:00~15:00	司法書士相談	司法書士		
	8月27日(月)	13:00~16:00	心配ごと相談	心配ごと相談員		
	8月24日(金)	13:00~15:00	心配ごと相談	心配ごと相談員	八坂支所	八坂地域福祉センター TEL26-2100
	8月28日(火)	13:30~15:30	なんでも相談	心配ごと相談員	やすらぎの郷	池田町社協 TEL62-9544
	8月1日(水)	13:00~15:00	生活相談・子育て相談	民生・児童委員	ゆうあい館	松川村社協 TEL62-9000
	8月8日(水)	13:00~16:00	人権・心配ごと相談	人権擁護委員	白馬村保健福祉 ふれあいセンター	白馬村社協 TEL72-5000
9月	9月3日(月)	13:00~16:00	心配ごと相談	心配ごと相談員	大町市 総合福祉センター	大町市社協 TEL22-1501
		13:00~15:00	司法書士相談	司法書士		
	9月10日(月)	13:00~16:00	心配ごと相談	心配ごと相談員		
	9月24日(月)	13:00~16:00	心配ごと相談	心配ごと相談員		
		13:00~15:00	司法書士相談	司法書士		
	9月25日(火)	13:00~15:00	心配ごと相談	心配ごと相談員	美麻 総合福祉センター	美麻地域福祉センター TEL29-2341
	9月11日(火) 9月25日(火)	13:30~15:30	なんでも相談	心配ごと相談員	やすらぎの郷	池田町社協 TEL62-9544
	9月5日(水)	13:00~15:00	生活相談・人権相談	民生・児童委員 人権擁護委員	ゆうあい館	松川村社協 TEL62-9000
	9月19日(水)	13:30~16:00	心配ごと相談	司法書士 民生・児童委員	小谷村 開発センター	小谷村社協 TEL82-2430

◎お気軽にご相談ください。このほか、
【常設相談】土日祝日を除き毎日受け
付けています。 ☎22 - 1501

★電話相談 どんな悩みごともお気軽にどうぞ。

★日常生活自立支援 障がい者・高齢者の方で、ご自分で判断することが
難しく、日常生活や財産管理についてお困りの方。

★ボランティアセンター(社協内) ボランティアについての相談。

社協法人設立50周年記念事業

相田みつを美術館 館長 記念講演会

大町市社協は、住民の皆さまに支えられながら今年で法人設立50周年を迎えることができました。この節目の年に記念講演会を開催します。大勢のお越しをお待ちしております。

来場された方には、記念品を差し上げます。



先着250名

事前予約が必要です

- 日 時 平成24年8月25日(土) ▷開演13:20 (開場12:45)
- 場 所 サンアルプス大町 2階大会議室
- 講 演 演題「花は見えても 根は見えない」
～父 相田みつを を語る～
講師 相田みつを美術館 館長 相田 一人 氏
- 申し込み ・受付期間：8月1日(水)～8月15日(水)
・受付方法：大町市・八坂・美麻総合福祉センター、平・常盤・社公民館
電話または、窓口にて申し込みください。(土日除く)
・入場券：申し込みいただいた方には、入場券をお渡しします。
- 問い合わせ先 大町市社会福祉協議会 TEL 22-1501



プロフィール

- ・昭和30年出生。
- ・平成8年「相田みつを美術館」を開設。
- ・年間50回を超える講演活動を行う。

大町市総合福祉センター開館10周年記念事業

10周年記念イベントの参加者を募集します。

日ごろのご愛顧に感謝申し上げ『10周年記念イベント』を開催します。一緒にイベントを盛り上げていただける方や団体を募集します。

- 日 時 平成24年10月28日(日) 10:00～15:00
- 会 場 大町市総合福祉センター 全館(大町市東町1129番地)
- 募集内容 ▷室内ステージ発表で参加いただける方(先着6団体及び個人)
 - ・概ね30分間のステージ▷フリーマーケット出店者(先着20店)
 - ・センター北側正面玄関前に出店スペースを設けます
 - ・出店スペースは2メートル×2メートルの大きさです。※食品、生き物、薬品、火気の取扱いがあるもの等の販売はお断りします。
- 問い合わせ先 大町市社会福祉協議会 TEL 22-1501



**募集締切
9月28日(金)
必着**

ふれあいの窓

善意の寄附をありがとうございます H24.5.15～7.15(敬称略)

【現金】

南澤 靖…1,000,000円、匿名…586円
匿名…23,750円、匿名…11,819円
大町高等学校縁日販売係…10,000円

【物品】

神楽町女性部…タオル日用品多数
大町商工会議所女性会…タオル多数
中部電力㈱検針集金労働組合長野地方本部…車いす
【使用済ハガキ・切手等】 匿名多数

「社協 おおまち」へのご意見、ご希望、投稿などみなさんの声をお寄せください。

〒398-0002 大町市大町1129 大町市総合福祉センター内

編集・発行；社会福祉法人 大町市社会福祉協議会 地域福祉係 TEL22-1501 FAX22-7071

URL <http://www.omachishakyo.org/> E-mail soumu@omachishakyo.or.jp